

月報

岡崎の教育

9月号



もろ人の百万言を
 しゃべるより
 鍋の炭でもかくがよし

白井こご
 (岡崎女子高創立六十
 周年記念日誌より)

昭和50年9月1日
 編集・発行
 岡崎市教育委員会
 印刷
 研文印刷社

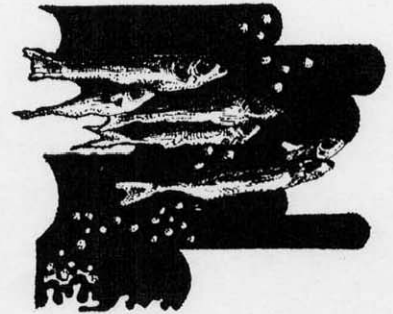


(秋の日ざしを受けて野外練習に励む — 岩中)

— 教育随想 —

あいさつ

小林一男



少林寺拳法の演技と子ども連の八幡太鼓（ばはんたいこ）のバチ音・ほら貝の音と言ひ、記念講演の、四国女子大、草薙教授の「讃岐における幕末思想史」のお話と言ひ、率直に言つて、ここに新しい教育が起りつゝ、あると実感される、すがすがしさであつた。香川県の五色台教育については、すでにご存じの方々も多からうと思ふ。

禅語にも、「道を得ることは、身もつて得ることなり。」とある。口に出して、はつきりあいさつをするなどということは、価値観だとか、イデオロギーだとかの問題ではなく、まさに人間性の問題なのである。

現に、欧米を視察した人々なら、あいさつが社会生活の根底を支えているのが文化国家、福祉国家の実状であることを認めておられることであらう。

私は、本当の意味の、ゆたかな教育、ゆとりある教育は、ここから出直さなければ不可能であると信じている。そしてそれこそが、エコノミック、アニマルの汚名を返上し、赤軍派がつくつた、日本人に対する世界の不信を拭う、最も手近で、確実な道であり、日本を文化国家、福祉国家にするために、第一に、しななくてはならないことであると思う。

新学期、また、岡高生を、あいさつのできる生徒にと、一奮発を期している。

（県立岡崎高等学校長）

いまはむかし

初任給



仏壇へ供える。「八給上俵（当分ノ間）給ス」として五十一円で額田郡に勤めたのが大正十一年。父すでに亡く、女手ひとつで農家の苦しい生活の中から、師範学校へやってくれた母。その母が早速仏壇へ供え、灯明をつけて合掌した。借金もかなりあつたので大半は生活費に回つたが、それでも白の詰袷服を新調、身も引き締まる思いで着用した。

不景気のおおりの「大学は出たけれど」「ルンペン」などの言葉がはやつた昭和のはじめ。前の年は五十三円だったのに昭和八年からは、不景気のおおりに受けて四十八円にダウン。服や靴など親からの借金で買ったので給料はすべて親元へ。町や村の財政がひつ迫し、そのしわ寄せが教員の給与にまで及んだのもこの頃。市町村負担だったので、貧乏な町村では支払いが遅れたり、分割払いだったりした。北設の方では米で支給され、それを売って金にかえて生活したという。

軍靴の音の中で 太平洋戦争も敗色いよいよ濃くなつた十九年。外地（朝鮮）

まことにお恥ずかしいことながら、私は岡崎高校に赴任して一年半になるのにいまだに、あいさつをしてくれる生徒が少ない。赴任して間もない頃、朝礼で、お互に、はつきりと口に出してあいさつをしようと言つたのであるが、それだけのこと、まだ実行されてはいない。

八月初旬、四国の丸亀市で、高校の定時制通信制教育振興会の全国大会が行われたが、その開会式の市長さんの祝辞に次のようなお話があつた。

最近、ある中学校を視察したところ、教える技術の面の進歩には、目を見張るばかりであつた。視聴覚教育のための設備の立派なことなど、全く驚かさされた。そこで、ちよつと気がかりになつて、校長先生に、「物の面は実に立派になりましたが、心の教育の方は、

どうなつておりますか。」と尋ねたところ、その返事は、「それが、実は今日は、学校の保護者会をやつていまして、大勢の父兄が来て居られるのですが、廊下などで会いましたも、私にあいさつをされる方がほとんどありません。学校は知識の切り売りをするデパートで、保護者はお客様であり、お客様は神様であるとも考えておられるのでしょいか。一事が万事で、お尋ねの心の教育の方は、正直に申し上げて全くお寒い状態としか申しようがなく残念です。」とのことで、これには全く、びつくり仰天させられた、と。まことに我が意を得たお話であつた。やや余談にわたつて恐縮であるが、その大会の運営は、実にさわやかであつた。アトラクションの、高校二年生、二段の

ふるさとの自然

岡崎が海底で

あつた頃

岡崎の地質 II



〈岡崎にも貝化石が出る〉

緑が丘小学校を南からとり囲むようにして海拔五十―百メートルの丘陵が発達している。この丘陵地から木の葉や貝、ときにはウニやヒトデの化石が産出することをご存知だろうか。また、馬頭から蓑川にかけては、鳥の卵を思わせる丸い珪質片麻岩（珪石）の小石が地層の中に含まれる。丸く、よく円磨された小石と貝やウニの化石から、この付近の地層が海底で堆積したものであると推論するのは難かしいことではないであろう。貝の種類や地層の堆積のしかたから見るとかなり深い海の底であつたらしい。

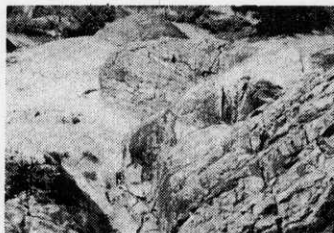
〈古瀬戸内海の時代〉

地元の人たちは貝化石の出ることを古くから知っていたようである。しかし実際に調査・記載されたのはごく最近のことである。記載された貝は約六十種類、これらの化石から地層のできた時代は岐阜県瑞浪地方や知多半島、設楽地方などの地層とほぼ同時代、第三紀中新世で、今からほぼ二千万年ほど前のものと推定

された。その頃は中国地方から東への伊奈盆地をぬけて日本海に至る、古瀬戸内海と呼ばれる海があつたのである。

〈見られなくなる過去の記録〉

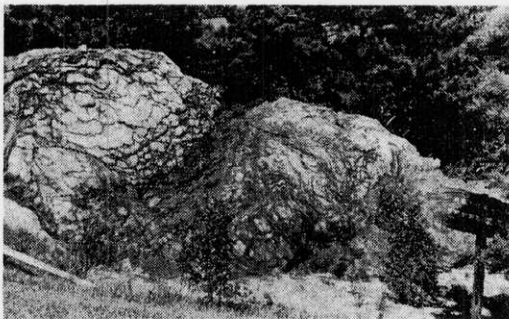
遠足やハイキングで親しまれている牛乗山にも、丸い小石や水磨された巨礫があり、海岸に似た景観を呈している。かつてはこの上に百メートルに近い地層が堆積していたものが浸食作用によりけずられて地層の基底の礫層だけが残つたものである。生平町の、通称碁盤石山には市の天然記念物に指定されている「しし



牛乗山の水磨された岩盤や巨礫



よく水磨された円礫



忘れられた存在、天然記念物「しし岩」

岩」と呼ばれる見事な礫があるがやはり牛乗山と同じ地層のものである。このあたりの山頂から西南をながめながら太古の大海原を想像してみるのも一興である。ところで、この「しし岩」は、現在ゴルフ場の中にあり、許可がなくては見られない。牛乗山も一畑薬師分院の建築用地になつており、近いうちに同じような運命になるであろう。前にのべた化石産地も造成地内にあたるため、いずれは削りとられるか被覆されるかされてしまふであろう。これらの大切な過去の記録をそのままの状態で保存しておくわけにはいかないのだろうか。

(福岡小 竹内昭次)

では手当ても多く百円余りもらつた。だが教壇に立つたものの入営の間近いことは明らかだつた。行けばそこに待っているものは死のみ、そう思うと欲しい物は何もなかった。心の救いを求めて、岩波文庫の「葉隠」を買つて読む。そして、この世の見納めにと官憲の目を逃れて満州の原野をリュックを背負つて旅した。

焼け跡に立つて 焦土と化した岡崎の町を眺めてしばし茫然。くず拾いの少年の方が給料がよかつた時代。絡戦の年は七十五円、二十三年には四百二十円になつたが、とどまるどころを知らないインフレで、とても生活できない。背に腹はかえられぬと、教え兎に後髪を引かれる思いで次々と去つていく同僚たち。靴一足買つたら文字どおり足が出た時のみじめさは終生忘れることができない。

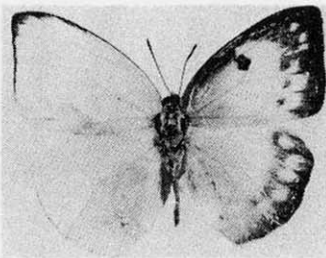
暮しは低くとも 昭和二十七年が六千三百円。二期に分けてもらつたので一回が手取三千円弱。東加茂の山奥から、久しぶりで康生まで出てきたら、やたらにネオンがまぶしかった。道を行く女の人があみなきれいに見えた。同僚と飲み明かし気がついたら財布は空になつてた。昭和三十年が九千三百円。わびしい下宿生活では一本百円だつたビールが何よりの楽しみで、毎晩飲んだので大半はこちらへ。残りは当時出始めたハイファイライジオが欲しくて月賦で買うのに使つてしまつた。

(川島良夫、岩見孝喜先生、そのほかの方々のお話から)

歩く 求める



愛染院・芭蕉翁句碑



1千万頭に1頭という雌雄型蝶

蝶につかれて

蝶を収集、研究するようになって、はや十四年という年月が過ぎた。この間、何度、蝶を採り逃したことがあったか数えきれないが、思い出すたびに、くやしさがこみあげてきて、足の裏をモゾモゾさせる失敗が二回ほどあった。

その一つは、沖縄本島でのことである。日本では本島にしかない蝶が、目の前の

葉の上にとまった。無論、採集禁止地域外である。ところが網を持っていない。急いで帰って持って来たが、そこにはいなかった。七メートルのさおをつなげて、ようやくとどくところだった。深呼吸をして、思い切り振った。蝶はヒラリと飛んで、少しの間、空中に静止していた。青い空に黒いふちどりのある白い帯が映った。そしてそのまま飛び去った。今でも目をつぶると、その光景が浮かんでくる。

もう一つは、奄美大島でのことである。目の前にフワリと現れたのは、一頭の黒い雄であった。が、次の瞬間、それは白い雌に変わった。半が雄で、半が雌の個体であった。全身が震えた。網を夢中で振った。蝶は、さっと身を翻すと密林の中へ姿を隠した。私は茫然とその場に立ちつくした。

蝶と一緒に生活している今が、とても

楽しい。蝶、これはかけがえない友であり、生活の原動力でもある。そして蝶は、私自身の仮身でもある。

(六ツ美中部小 杉坂美典)

社会科学サークル夏季巡検

社会科学サークルでは毎年、夏季巡検を行っている。一昨年は鎌倉、昨年は奈良、そして今年も長野の上田・松本方面へでかけた。

早朝に岡崎をたち、木曾路を経て、諏訪から茅野へとまわった。茅野には有名な尖石遺跡がある。この遺跡は宮坂英武氏が小・中学校の教員をするかたわら、ほぼ独力で発掘したものだそう、その努力に全く頭の下がる思いがした。

今年の巡検は上田を中心に行った。講師として毎年参加していただいている市教委の伊予田先生の案内のもとに、上田市内をまわった。

上田は千曲川に沿って市街が広がっており、十六世紀末に真田昌幸が城を築いて以来、城下町、宿場町として発達した。上田市街から十キロほど離れた別所温泉の近くには安楽寺、常楽寺、少し離れた大法寺などがあり、国宝や重文が数多くある。なお上田城内には岡崎市出身の洋画家山本鼎の記念館がある。

昼間は次から次へのハード・スケジュールが組まれているが、宿ではなごやかな歓談の場をもつ。日常の教育の悩みを語り合う中で、新しい希望も生まれてこ

ようというものである。掃路は伊那谷にはいり、河岸段丘及びそれを横切る田切の地形を見ながら、開通まもない恵那山トンネルを経て、無事岡崎に着いた。

(六名小 福応謙一)



川中島古戦場

十年の旅

芭蕉は「野ざらし紀行」を初めとして幾多の旅にその生涯を費やしている。私がある一途な姿に心をひかれてからもう十年が経つ。今の世相がこれだけあくせくとしているだけに、よけいに、江戸の昔に一つの志を全うした俳人の生き方に心うたれるのかもしれない。そんなあこがれを持って昨年は岡崎の句碑めぐりを、そして、ことしは生誕の地「伊賀上野」を訪れてみた。

岡崎から車で三時間、百五十キロの行程だが、その一キロ一キロが芭蕉にとってはきつい一歩一歩であったにちがいない。そう思いながらたどり着いた上野の

町はまさに芭蕉一色であった。上野城内に記念館、佛聖殿がどつかとすわり、そこから南一帯にゆかりの地が点在する。そのいずれもが三百年の風雪に耐え、夏木立の中にひっそりとその姿をとどめていた。そして、佛聖らしく至る所に句碑が静かに建っていた。

「糞虫の音を聞きに来よ草の庵」

「古里や臍の緒に泣く年の暮」

これらの句碑は、目の前に大切に保存

子どもの姿

8ミリで追う

担任した子どもの成長を撮り続けて二十年近くにもなる。その動機は「写真」と違って「動き」があり、何年かたつてから映写してみるのもおもしろいと思つたからである。学校行事を主として撮りまくつた。同級会・同窓会などで鑑賞するのも昔を懐古するのに好適なアルバムだと思ふ。その他の撮影は暇がないので夏休みを利用して撮影してきた。

毎年、秋に愛知新聞・岡崎小型映画協会の主催で、8ミリ映画コンテストを実施しているが、最近五年連続入賞しているのも、一つの励みになっている。

今年度は三年担当ということで「修学旅行」を撮影したが、編集して父兄に鑑賞してもらうつもりでいる。現在は二年計画で「岩津の里」というタイトルで製作にかかっている。駒立のぶどう狩り、

された庵や生家があるだけに、いっそうあざやかに昔をしのばせてくれる。蕉風を確立するまでの苦難を思う時、彼の非凡の才に驚かずにはいられない。また、そんな彼を今もなお上野の町がやさしく見守っていることによりうれしささえ覚えた。緑陰を選ぶがごとく句碑立てり
杓けついでなほ平然と石仏
凌霽花風なき寺の大落暉

(福岡中 杉浦博司)



「岩津の里」を撮る

大門のしめ縄つくり、松平家ゆかりの地として有名な大樹寺、信光明寺、他に岩津古墳群、真福寺、岩津城址など歴史のもの、地理的なものに製作意欲を燃やしている。

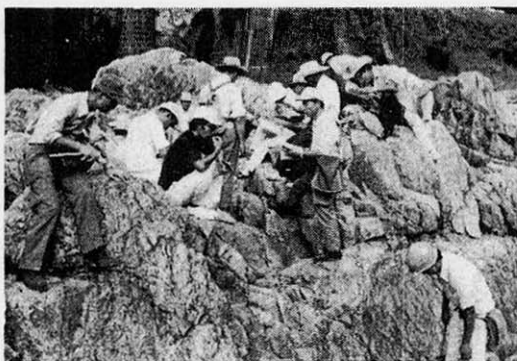
(岩津中 中尾剣一)

日本で一番古い石

高山線と並行して流れる飛騨川の川辺に奇妙な集団があった。岩石用ハンマーを持つているところを見ると石泥棒であろうか。実は理科県外研修(飛騨高山の地質に学ぶ)に参加した岡崎の教員の面々である。

教師となって二年目、昨年は何もかもが目新しく、手あたりしだいに何もかもやってきたので、大学時代の専攻した地学などは忘れられた存在であったが、この研修に参加して、久しぶりに聞いた地学用語、自然との触れ合いの素晴らしさなど、自分の専攻を大切にしなければ、と痛感した次第である。

上麻生駅で下車して飛騨川を一キロほど下る。二十億年前の岩石にお目にかかるためである。けわしい崖のふみ分け道を下ると、砂岩と頁岩の互層の中にめざす礫岩があった。その礫岩中に先古生代の珪線石片麻岩が含まれるという。もちろん日本最古である。礫岩の壁を見ると所々に穴があいている。誰かがくりぬいて持ち帰ったものだろう。「カン、カン、カン」昼食も忘れた先生たちのハンマーの音がする。「おおい、あつたぞ」と誰かがさげふ。みんなが集まり、「ホーッ」とため息。これが日本最古の岩石かわるがわるさすつたりたいたたり……。この礫の供給源は日本にまだ見つかっておらず、正珪岩礫とともに北方の大陸



日本最古の岩石を求めて

から流されてきたものらしいということである。当時、日本は大陸と陸続きであったのだ。

研修の三日間、講師の仲井先生の上手なりードに、学生の昔に返つた気持ちで露頭をめぐる。中山七里の火道角礫岩、日本の土台石、飛騨片麻岩、これが花崗岩かと首をひねつた船津花崗岩、美しい結晶の集まりの大理石……どれもこれも魅力的、どうしても大きなサンプルがとりたくなる。

掃りのリュックサックは、どの先生も石でいっぱい。やっぱり石泥棒の集団だったらしい。みのりの多い三日間であった。

(岩津小 大岡久芳)

— 講演要旨 —

動物のことば

桑原万寿太郎



動物は決して孤独で生活して
いるではありません。基本的
に社会的なのです。社会とい
う秩序を保っていかなくては生
存できないのです。そのために、
どうしても個体どうしが互いに
通信しあうものがなければなら
ないわけですが、それを私も
は「動物のことば」と呼んでい
るのです。それがいつたいどう
いうものであるか、ということ
をお話ししたいわけですが、ま
ず、人間のことは本質的に
ちがうということをお話しして
もらいたいと思います。

私も、生まれた時からお
かさんとお話し合いができな
いんですね。ところが、猿では
それができます。妊娠した猿
を、おりの中で飼って、研究者
が毎日えさをやってかわいがっ
ても、猿の方から音声なこと
ばはちつとも出てこない。とこ
ろが、遂に赤ん坊が生まれたの

です。驚くべきことには、その
瞬間から、親猿と赤ん坊とは話
を始めたのです。ことばがその
まま通じているのです。生まれ
ながらにして通じているので
本能的に通じちゃうんですね。
これが、動物のことばです。

人間のことはというのは、一
つ一つに概念を持つのです。が、
動物のことばにはそれがありま
せん。親から、何も教わらな
い。ちゃんとわかってしまう。と
いうことはどうしてもこれは遺
伝だ、と考える他ないのです。
本能構造というのは、種独特で
あって、遺伝的に伝えられてい
くものなのです。
とにかく、特殊な刺激が来る
と戦いにでたり、反応したりす
るんです。そういう刺激をリリ
ーサーと呼んでいます。動物の
ことばというのは、一種のリリ
ーサーなんだと考えているので
す。生まれながらにして通じて

しまうんです。だから、その音
を聞くと、また物を見ると、気
分的に戦わざるを得なかったり、
行動を起こさざるを得ないの
です。

だから、猿には三十いくつの
まことにみごたなことがあ
る。ようにみえるけども、これは全
部リリーサーなんだ、というこ
とです。丹波の猿を連れてきて
も、同じ種類なら高崎山の猿と
ことばが通じるんです。動物の
ことばに方言というのはいま
せん。種類が同じなら、ことば
も同じなのです。

みつばちの世界というのはす
ごいことばがあるのです。ある
みつばちが一キロメートルも離
れた所で、ある花の蜜を見つけ
て帰って来ると、仲間にも踊りな

から教えるんです。踊りのこと
ばです。何を教えるかという
花の種類と、ここからの距離、
それに方向の三つなんです。す
ばらしいんです。働きばちは、
さなぎからの寿命が一月ない
んです。その間に一つ一つこと
ばを覚えていては、とても間に
あいません。とにかく、生まれ
ながらにして通じてしまうわけ
です。外から帰ってきて、その
踊りをやると、聞く方もちゃん
とわかっちゃうんです。

みつばちは、すばらしい社会
を構成していることは、皆さん
もご存知の通りです。ただ、人
間の社会と根本的にちがうと
ころがあるんです。それは、みつ
ばちの社会には三つの階級があ
るといことです。つまり、一
匹の女王ばち、雄のはち、それ

が返ってくる。我がワンバククラス4年
2組の子ども達の将来の姿である。子
ども達の夢は、はてしなくひろがる。
「プロ野球の選手にどうしてなりたいの」
と聞けば、
「だってぼくは、野球がうまいし、走る
ことも速いもん。それに、ホームランを
打つ自信もあるよ」としんけんな顔で答
える。

子どもたちは、大人になったら、お金
をためて大きな家に住み、海外旅行に行
くという現実的なことを思う反面、お世
話になった両親に恩返しをすることも頭
の中に入れてる。

自分の夢に一步でも近付くように、が
んばってほしい。

(藤川小)

(上智大学教授・八月十日
市民大学講座にて)

かがみ

木蔭での語らい

酒井 理子

「大人になったらなにになるの」

「先生」「船長」「プロ野球の選手」

「大工」「ピアニスト」……と元気な声

が返ってくる。我がワンバククラス4年
2組の子ども達の将来の姿である。子
ども達の夢は、はてしなくひろがる。

「プロ野球の選手にどうしてなりたいの」

と聞けば、

「だってぼくは、野球がうまいし、走る
ことも速いもん。それに、ホームランを
打つ自信もあるよ」としんけんな顔で答
える。

子どもたちは、大人になったら、お金
をためて大きな家に住み、海外旅行に行
くという現実的なことを思う反面、お世
話になった両親に恩返しをすることも頭
の中に入れてる。

自分の夢に一步でも近付くように、が
んばってほしい。

(藤川小)



グラシオラス

創意と熱意の作品展・発表会

日程、実施要領決まる

本市現職教育委独自のものと
して好評を得て来た児童・生徒
の作品展、発表会が、こどもも
それぞれ次のような日程・要領
で開催される。

【理科作品展】▽期日 十月二
日(七日(六日間))▽場所 二

オ・松坂屋五階催事場▽内容 児
童・生徒の理科研究物、科学
的工物物など約三百点、特別コ
ーナー「道具を科学する」、作
るコーナー、遊ぶコーナー、見
るコーナー等の設置。

【造形おかさきつ子展】▽期日
十一月二、三日▽場所 二東公

園▽内容 二「わたしのおまもり」
をテーマに全児童・生徒による
課題作品を十ブロックの作品群
に分けて展示し、記念のスタン
プをたどりながら造形の森十か

【寄贈刊行物・資料等】

◇海外研修の記録「風のこくとく」
塚本時丸著

文部省の海外研修でオースト
リア、東南アジアを歴訪した
著者が、教師の目ととらえた各
国の国情、風俗、教育のようす
を平明、軽快に描いて清々しい。

B6判一六〇ページ

◇読書指導のために
現職教育委図書館部会編

指導の問題点を具体的な実践
例をあげてわかり易く解説した
ハンドブック。読書、利用、管
理運営の各面からまとめあり
すぐ役立つ。新書判六四ページ。

合唱、三部 二ブラスバンド合同
演奏と全員合唱。

【技術・家庭科作品展】▽期日
十一月二十三、二十四日▽会
場 二市民体育館(旧城北会館)

▽内容 二「手と道具の機能を生
かして生活と技術を考える」を
テーマとした製図・木工・金工
機械・電気・栽培・被服・食物
住居・保育などの生徒作品と、
その製作工程、工具、教具など
を展示、紹介する。

スライド資料岡崎の姿(農業編)完成

社会科の若い教師十三人の二
年間に亘るひたむきなグループ
活動が実つてすばらしい資料集
が生まれた。

よりよい社会科の授業研究を
しているうちに、自作スライド
による郷土学習の必要に思い当
ったわけだが、取材、編集、
検討のために毎週一回の会合に

なつたという。
単行本風なケースに六〇枚の
スライドと解説書が入っている。
どの一枚も指導の観点から徹
底した検討の上を選んでものだ
けに岡崎の農業の実態、特色が
要領よく表現されている。スラ
イドは各校の協力もあって二学
期以降実際に教室で使われるが

グループでは、さらに商工業編
や歴史編も手がけたいとはりき
っている。

■矢作中県・全国大会で活躍

夏の中学校各種体育競技の総
決算県大会での矢作中の活躍は
目ざましかったが、同校は更に
進出したいくつかの全国大会でも
大いに岡崎のために気を吐いた。
関係記録は次のとおり。

◇第29回県中学校総合体育大会
(八月六、八日・県内各地)

【男子】▽水泳③城北⑥葵中▽
ハンド③六ツ美▽庭球①矢作⑤

東海▽バレー②甲山▽バスケット⑤美川▽剣道⑤福岡

【女子】▽水泳③甲山⑧葵中▽
ハンド③六ツ美▽庭球①矢作▽
バレー①矢作⑤城北▽体操③南
中▽陸上⑥矢作⑥城北

◇第2回全日本中学生陸上選手
権大会(八月十六、十七日・国立競
技場)

▽男子三千百①鈴木英典(矢作
中) 9分11秒2
◇第6回全日本中学生軟式庭球
選手権大会(八月二十、二十一日・堺
市浜寺公園コート)

■十月の研究発表校

【矢作北小】
九日(木)▽主題 二ひとりひと
りを生かす基本的条件の探究▽
内容 二全校集会、学級朝の会、
公開授業、研究発表、協議会(二
十八日(火)▽主題 二生活経
験を豊かにするクラブ活動▽内
容 二公開授業(①体育的クラブ
②文化的・生産的クラブ)、研
究発表、生徒発表、協議会(指
導 筑波大相川高雄先生)、講演
東京都目黒区立東山中学校長望
月一宏先生。

【美川中】

【香山中】
十七日(金)▽主題 二みんな

見つめてひとりひとりを伸ばす
▽内容 二生徒集会、研究発表、
ランチタイム公開、研究発表、
協議会、講演「自然とのふれ合
い」名和昆虫研究所長名和秀雄
先生。

岡崎村道路元標

東海銀行国鉄岡崎駅前支店の向かいの歩道にある道路元標。かつて岡崎馬車鉄道の待合所であった和菓子屋の老主人の話によれば、大正末期に建てられたものだという。

その頃、この一帯は額田郡岡崎村(羽根・戸崎・柱・若松・針崎)の中心に位置し、幡豆郡西尾町と碧海郡安城町につながる二つの郡道の起点となっていた。



所在地 岡崎市羽根町東荒子110

日本の本

動物の体内時計

桑原万寿太郎
岩波新書 49・11 ¥ 二二〇

一休

水上 勉
中央公論社 50・4 ¥ 九五〇

日本人の政治感覚

川上 源太郎
ダイヤモンド社 50・4 ¥ 九五〇

細川ガラシア夫人

三浦 綾子
主婦の友社 50・7 ¥ 九八〇

につぼんの商人

イザヤ・ベンタサン
文芸春秋 50・3 ¥ 七五〇

教育者—新しい人間像の発見

堀内 守
日本放送出版協会 50・2 ¥ 六〇〇

たまねぎにんげん

荻野 圓敬
葎蔭会 49・11 ¥ 七〇〇

自分でできる健康法

近江 明
厚生出版社 ¥ 七〇〇

この三十年の日本人

児玉 隆也
新潮社 50・7 ¥ 八〇〇

東海の民話

毎日新聞社学芸部
六法出版社 50・6 ¥ 一五〇〇



寸言

▲紺碧に深く晴れた空、庭の木蔭、風のひびき。自然の風物のさわやかさは、また人の心のさわやかさでもある。

▲よくみのつた実ほど親戚から遠くへ飛ぶ。シイナは、いつでも親戚に甘つたれている。

▲すばらしい教師があるとすれば、それは子どもを叱るさいに平常の音声を保つ教師である。

・カット
鈴木 由郎 (美川中)

9月の行事

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	月	第二学期始業式	短縮授業(1~6日)	16	火	新任教員研修会(全体会)	月報編集委員会(市役所)
2	火	市PTA会長・婦人研修員研修会	(市役所)	17	水	学校開放事業事務長連絡会	(市役所)
3	水	定例校長会	(婦人会館)	18	木		
4	木			19	金	文化財保護審議会	(市役所)
5	金	母と女教師の会(六名小)	小学校児童会連絡会(根石小)	20	土		
6	土			21	日	岡崎市民大学(奈良本辰也先生)	市婦人運動会(公園)
7	日	岡崎市民大学(金田一春彦先生)	岡崎青年体育祭(公園グランド)	22	月		
8	月			23	火	第25次岡崎教研集会	(矢作中)
9	火	市PTAグループ活動連絡会	(市役所)	24	水	(秋分の日)	吹奏楽祭(市民会館)
10	水	社会教育審議会	(市役所)	25	木		
11	木	定例教育委員会	(市役所)	26	金		
12	金	六ツ美中部小研究発表会	(読書指導)	27	土	教育文化賞申請・推薦絡切り	
13	土	文化庁移動芸術祭新劇公演	(市民会館)	28	日	岡崎市民大学開講式(赤松秀雄先生)	市民陸上選手権大会(県営グランド)文化財移動教室
14	日	中学校新人水泳大会(葵中)	秋季軟式庭球大会 市民総合卓球大会	29	月		
15	月	(敬老の日)		30	火		